

# 「コミュニティ・スクールと 地域学校協働活動の一体的推進」とは？



文部科学省 総合教育政策局

CSマイスター 安齋宏之

(ふくしま学校と地域の未来研究所 代表)



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,  
CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN



関連 Facebook

# 1 学校が抱えるモヤモヤ～一体的推進とはいふけれど・・・～

<学 校>



- ・学校運営の改善
- ・「社会に開かれた教育課程」の実現



教育目標の具現化  
(未来の創り手となる力の育成)

「地域とともにある学校づくり」

<地 域>



- ・より多くの地域住民が参画した  
多様な活動



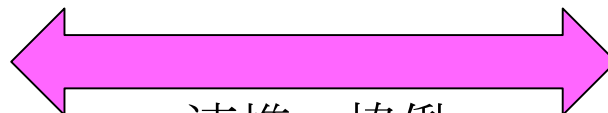
子供の成長を軸にした自立した  
地域社会の基盤の構築・活性化

「学校を核とした地域づくり」

目標の共有



パートナー



連携・協働



## モヤモヤ1・・・「目標の共有」は本当にできているの？

学校と地域がパートナーとして連携・協働を進めるためには、「目標の共有」が大切とされていますが、学校が何を目指し、どんな教育活動を行っているか、地域に伝わっているのでしょうか。一方で、学校の教育目標には、地域の思いが反映されているのでしょうか。

## モヤモヤ2・・・「連携・協働」の前に「分担」では？

「社会に開かれた教育課程」の実現のためには、地域との連携・協働が欠かせません。しかし、その前に「学校の棚卸し」を行い、学校・家庭・地域の本来の役割の確認と「分担」をする必要があるのではないのでしょうか。

## モヤモヤ3・・・「学校」と「地域」は本当にパートナー？

地域が学校や子供たちを応援・支援するという一方向の関係から、パートナーシップに基づき双方向の関係になることが求められていますが、学校と地域双方にパートナーという意識が醸成されているのでしょうか。



じゃあどうすればいいの？



## 2 モヤモヤの解決策

### (1) 対話を通じた信頼関係の醸成～CSと「熟議」の活用～

コロナ禍前も学校と地域の対話は十分といえませんでした。コロナ禍により対話不足に拍車がかかり、学校と地域の関係がより一層希薄になって来ています。

そこで、コミュニティ・スクールの仕組みを導入し、学校運営協議会で、保護者・地域住民と学校課題や子供の課題を話し合い、その解決策や未来の創り手となる子供を育成する学校の在り方を話し合う必要があります。

特に、「熟議」という対話の手法を使って、より多くの保護者・地域住民との対話を継続していくことが、学校理解・地域理解を促進し、信頼関係の醸成につながります。

熟議を繰り返すことで**当事者意識**が高まり、**相互理解と信頼関係**が深まります。



パートナーシップの構築は、熟議で

- 熟議テーマ 「教職員の子供と向き合う時間をどう確保するか」
- 参加者 学校運営協議会委員 教職員(ほぼ全員) PTA役員
- 出された主な意見
  - ・ 保護者や地域が協力できることをやる。
  - ・ 教職員の仕事の大変さを理解する。
  - ・ 保護者や地域がやるべきことを学校に押しつけない。
  - ・ 仕事量を減らす(行事の精選)
- 熟議から生まれた取組
  - ・ 学校評価の外部アンケートのICT化
  - ・ 教職員の朝の交通指導の取りやめ 等



最大の成果は・・・

保護者・地域住民が、教職員の職務の大変さを理解してくれたこと

熟議は、相互理解と信頼関係構築の場→パートナーシップの構築

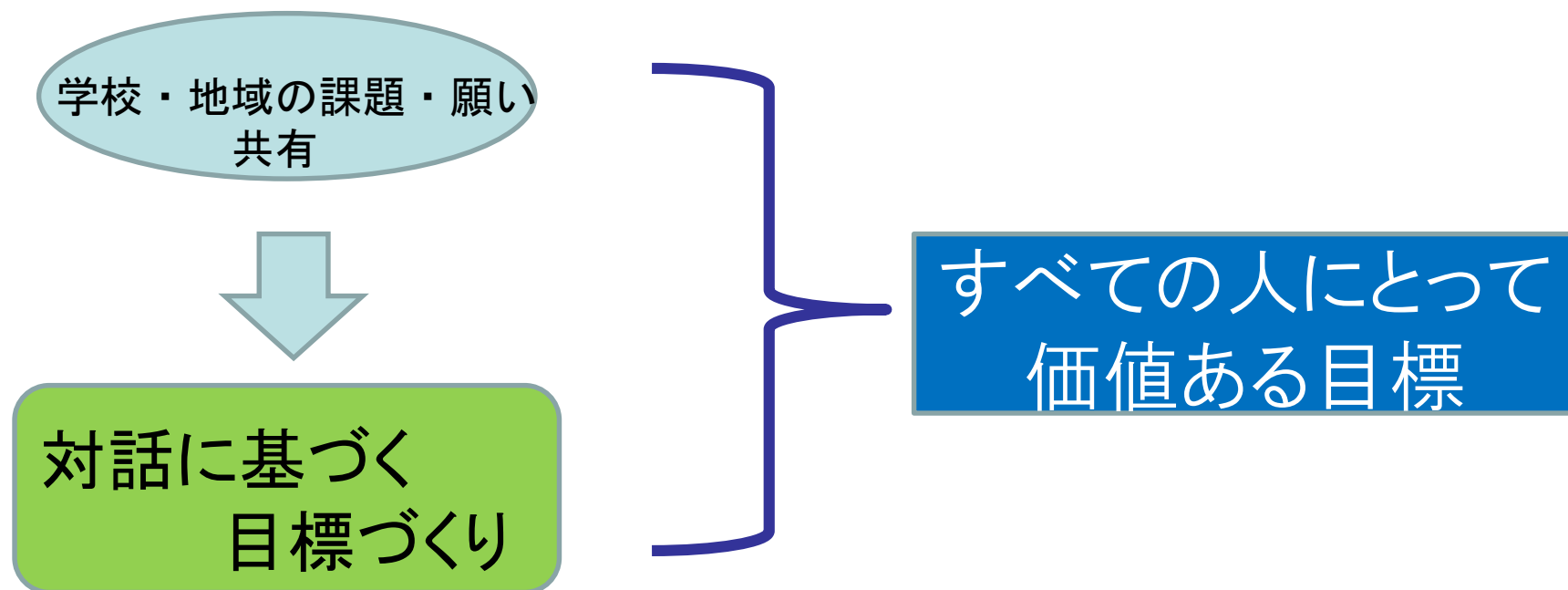


(本宮市立五百川小学校の熟議)



## (2) 目標の共有から連携・協働へ～価値ある教育目標づくり～

学校における教育課程の編成は、教育目標具現化に向けた取組の一つである。しかし、その教育目標が、社会と共有されていなければ、連携・協働も生まれない。子供たちに育みたい力を地域とともに考え、対話に基づく目標づくりが、すべて人にとって価値ある目標となり、連携・協働の第1歩となる。



「価値ある目標」とは……

- ① 未来の姿を描く
- ② 使命感・役割を生む
- ③ 情熱を生む

➡ 「集人機」・「集心機」の役割を果たす

＜大切なのは作り方～教育目標～＞

- 学校だけでなく、保護者や地域住民と一緒につくる。  
(熟議の活用)
- プロセスを共有する。(時間をかけて)
- だれにもわかりやすくする。(欲張らないで、シンプルに)



本宮まゆみ小学校では、「熟議」を使ってみんなの思  
いや夢を出し合い、教育目標を作りました。

- どんな子供を育てたいか(どんな力を身につけさせたいか)
- どんな学校にしたいか
- どんな地域にしたいか



### <出てきたキーワード>

自分の頭で考える子、課題解決力、創造力

楽しい学校、笑顔、多様性

子供の幸せ、地域の未来、地域のつながり、共生、協働

### <作成上配慮したこと>

- 欲張らない(本当に大切にしたいことに絞る)
- 覚えやすい(小学校1年生でも言えるように)





# ～本宮まゆみ小学校の新たな教育目標と児童像の設定～

## ＜目標設定のプロセス＞

8月・・・CS推進委員会において熟議

10月・・・教職員による熟議

11月・・・職員会議に教育目標(案)を提案、協議

12月・・・CS推進委員会へ教育目標(案)を提案、協議

12月・・・PTA本部役員会へ教育目標(案)を提案、協議

12月・・・職員会議で教育目標の決定



教育目標(令和3年度～令和8年度)

「楽しいこと考えよう！」

～しあわせを創るまゆみっ子（ハピネスクリエイター）の育成～

＜まゆみっ子につけたい4つの力＞

- コミュニケーション力
- 挑戦力
- 創造(創造)的思考力
- 情報活用力

※キャリア教育の「基礎的・汎用的能力」から



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

本宮市立本宮まゆみ小学校令和3年度学校経営・運営ビジョン

教育目標 (令和3年度～令和8年度)

「楽しいこと考えよう!」

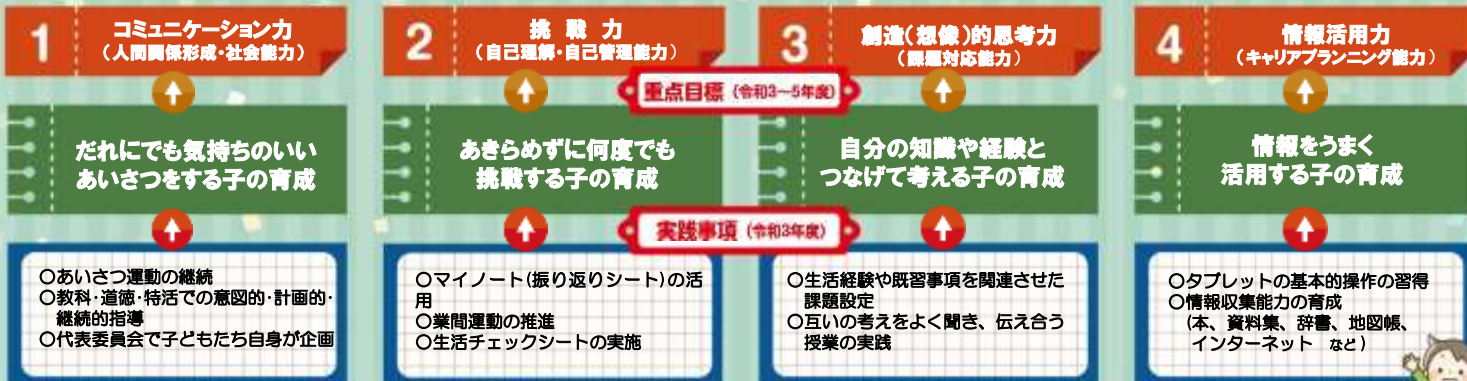
～しあわせを創るまゆみっ子 (ハビネスクリエーター) の育成～

めざす学校の姿  
～楽しさいっぱい、  
笑顔はじけるまゆみ小～

- トライ&エラーを安心して繰り返せる学校
- 地域とともにある学校

- ・新学習指導要領「社会に開かれた教育課程」
- ・第6次福島総合教育計画「ふくしまの和”で奏でる”ころ豊かなたくましい人づくり
- ・本宮市教育振興基本計画
- ・本宮市学校教育指導の重点「笑顔あふれる共育のまちもとみや」

まゆみっ子につけたい4つの力 (キャリア教育の「基礎的・汎用的能力」育成の観点から)



めざす教師の姿

- ★子どもと共に学び続け、成長する教師
- ★同僚性を発揮し、チームとして子どもにかかわる教師
- ★温かく子どもの心に寄り添う教師

めざす保護者の姿

- ★先生との信頼関係を大切に、共に子どもの成長を見守る保護者
- ★子どものチャレンジを全力で応援する保護者
- ★子どもと同じ目線で考え、個性を尊重する保護者

めざす地域の姿

- ★大人も子どもも気軽に声をかけ合い、元気なあいさつができる「おせっかい」な地域
- ★子どもの安心・安全のため積極的に子どもにかかわる地域

まゆみっ子を支えるベース



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

## <教育目標を地域とつくる効果>

- 「教育目標」が「協育目標」に、そして「共生目標」へ  
教育目標を地域と共につくることで、地域学校協働活動を推進するための目標（「協育目標」）となります。そのことが、地域住民のやりがいや生きがいとつながったとき「共生目標」へと進化する可能性があります。
- 保護者・地域住民の当事者意識の高揚  
当事者意識が高まることで、役割の明確化や分担が可能となります。また、地域学校協働活動も学校支援以外に家庭教育支援や地域課題の解決に向けた活動など、広がりが出てきます。
- 学校や子供たちへの関心が高まりボランティア増加への期待  
「よりよい学校教育を通じてよりよい社会をつくる」という意識が醸成され、地域住民の参画が増えることが期待されます。